— 観 察 記 録 —

宮城県仙台湾におけるアメリカビロードキンクロ *Melanitta deglandi* の観察記録

先崎理之^{1,2*}・田野井博之³・田野井翔子³

¹ 国立環境研究所生物・生態系環境研究センター 〒305-0053 茨城県つくば市小野川 16-2

² 北海道大学大学院地球環境科学研究院 〒060-8010 北海道札幌市北区北 10 条西 5 丁目

³ 株式会社エコリス 〒981-1104 宮城県仙台市太白区中田 5-3-21

(2019 年 12 月 11 日受付；2020 年 4 月 3 日受理)

キーワード：アメリカビロードキンクロ, *Melanitta deglandi*, 雄成鳥, 宮城県.

日本鳥学会誌
Japanese Journal of
Ornithology
© The Ornithological Society
of Japan 2020

Masayuki SENZAKI^{1,2}, Hiroyuki TANOI³, Shoko TANOI³. A record of White-winged Scoter *Melanitta deglandi* from Sendai Bay, Miyagi Prefecture. Jpn J Ornithol 69: 241–244. (2020)

Key words: White-winged Scoter, *Melanitta deglandi*, Male adult, Miyagi.

¹ Center for Environmental Biology and Ecosystem Studies, National Institute for Environmental Studies, Tsukuba, Ibaraki 305-0053, Japan.

² Faculty of Environmental Earth Science, Hokkaido University, Nishi 5, Kita 10, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido 060-0810, Japan.

³ Ecoris Inc., 5-3-21, Nakada, Taihaku-ku, Sendai, Miyagi 981-1104, Japan.

1. 種名・観察個体数：アメリカビロードキンクロ *Melanitta deglandi* 1 羽. 本稿におけるクロガモ属 *Melanitta* の分類は世界の主要な鳥類チェックリスト (del Hoyo & Collar 2014; Clements et al. 2019; Gill & Donsker 2019) に、各分類群の和名は氏原・氏原 (2015) に依った.

2. 観察者名：先崎理之・田野井博之・田野井翔子ほか数名

3. 観察日時・場所：2019 年 1 月 20 日 10 時 17 分前後数分. 宮城県岩沼市寺島沖約 4 km の海上 (38°04'28"N, 140°58'25"E).

4. 観察距離：100–200 m の距離から、12 倍の双眼鏡で観察し、焦点距離 500 mm のレンズを取り付けたデジタル一眼レフカメラで撮影した.

5. 観察した環境：海上. 天候は曇りで、観察時の波の高さは 0.5–1.0 m, 風向は北で風速 3–4 m/s 程度だった.

6. 形態に関する記述：現地での観察と写真 (図

1, 2) の検討から、本個体には以下の形態的特徴が認められた. 本個体の大きさは、一緒に行動していたビロードキンクロ *M. stejnegeri* 雄 5 羽雌 1 羽とほぼ同大に見えた (図 1, 2). 頭部は黒く、眼の下から後方にカンマ状の白線があり、この白線は眼の直径の 2 倍以上の長さがあった (図 1, 2). また、嘴基部には瘤があり、出っ張っていた (以下、この瘤状の出っ張りを瘤状突起と表記する). これらの特徴は周囲のビロードキンクロ雄と酷似していたが、頭部と瘤状突起の形状は周囲のビロードキンクロ雄とやや異なっていた (図 1, 2). すなわち、頭部の形状は、周囲のビロードキンクロ雄では額が低く長いスロープを形成していたのに対し、本個体では額が出ており角張っていた (図 1, 2). さらに、瘤状突起の高さは、周囲のビロードキンクロでは嘴高と同程度であったのに対し、本個体では嘴高の 1/2 よりも短く見えた (図 1, 2). 頸、背、上尾筒および胸、腹、下尾筒は黒色だった (図 1, 2). 脇は濃い茶褐色で (図 1), 腋羽も茶褐色に見えた. 翼上面は小雨覆と中雨覆は黒く、大雨覆は基部が黒くそれ以外は白

* E-mail: msenzaki@ees.hokudai.ac.jp

doi:10.3838/jjo.69.241

図1. 仙台湾で観察されたアメリカビロードキンクロ雄成鳥。a) 本個体（左）とビロードキンクロ雄成鳥（右）の比較。b) 本個体の頭部拡大。（2019年1月20日 田野井博之撮影）。

Fig. 1. The White-winged Scoter *Melanitta deglandi* (left) observed in Sendai Bay. a) With an adult male Siberian Scoter *M. stejnegeri* (right). b) An enlarged image of the White-winged Scoter's head. Photographed by H. Tanoi on 20 January 2019.

図2. アメリカビロードキンクロの飛翔側面。（2019年1月20日 田野井博之撮影）。

Fig. 2. The White-winged Scoter in flight. Photographed by H. Tanoi on 20 January 2019.

かった。下雨覆は僅かに褐色みを帯びた黒色に見えた。初列風切は僅かに褐色みを帯びた黒色で、次列風切は白色だった（図2）。尾羽は黒かった（図2）。虹彩は白色だった（図1, 2）。脚はピンク色で、水かきは黒っぽく見えた（図2）。上嘴側面は、鼻孔より基部側が黒く、鼻孔の下が橙色、それ以外は全体的にピンク色だった（図1b）。

7. 計測値：なし

8. 種を同定した規準：周囲のビロードキンクロに酷似した大きさと体形から本個体はカモ目カモ科 *Anatidae* のうちのクロガモ属 *Melanitta* の一種である。世界のクロガモ属はビロードキンクロ、アメリカビロードキンクロ、ニシビロードキン

クロ *M. fusca*, アラナミキンクロ *M. perspicillata*, クロガモ *M. americana*, ニシキンクロ *M. nigra* の6種である（del Hoyo & Collar 2014; Clements et al. 2019; Gill & Donsker 2019）。これらのうち、本個体のように白色の次列風切を持つのは、ビロードキンクロ、アメリカビロードキンクロ、ニシビロードキンクロの3種である（Reeber 2015）。したがって、本個体はこれら3種のうちのいずれかである（Reeber 2015）。

ビロードキンクロ、アメリカビロードキンクロ、ニシビロードキンクロの羽色は、性別および年齢（1年目冬か2年目冬以降か）によって大きく異なり、識別点も性別と年齢ごとに異なる（Reeber 2015; 氏原・氏原 2015）。そこで、まずは本個体の性別と年齢を検討した。本個体の頭部は、眼後方の白線を除いて黒く、嘴の側面も橙色またはピンクだった。これらは3種に共通する雄の特徴である（Reeber 2015; 氏原・氏原 2015）。さらに、本個体の腹部は一樣に黒く淡褐色の幼羽はなかった。これは3種に共通する2年目冬以降の個体の特徴である（Reeber 2015; 氏原・氏原 2015）。なお、これら3種の一部の2年目冬の雄は、眼後方の白線が3年目冬以降の雄より短いことから年齢を識別できる（Reeber 2015; 氏原・氏原 2015）。本個体の眼後方の白線は、2年目冬の雄と識別できるほど短くはなかった（図1, 2）。しかし、全ての2年目冬の雄と3年目冬以降の雄を羽衣から識別できるわけではないので（Reeber 2015）、本稿では本個体の年齢を3年目冬以降であるとは断定しなかった。以上より、本個体は雄2年目冬以降の個体（以下、雄成鳥と表記）である。

ビロードキンクロ、アメリカビロードキンクロ、ニシビロードキンクロの雄成鳥は、1) 頭部の形状、2) 瘤状突起の大きさ、3) 上嘴側面の色、4) 脇の色から識別できる（Reeber 2015; 氏原・氏原 2015）。すなわち、ビロードキンクロ雄成鳥は、額が低く長いスロープを形成する、瘤状突起が大きい、上嘴の基部側がピンク色で外縁が幅広く黄色い、脇が黒いという特徴を持つ（Reeber 2015; 氏原・氏原 2015）。アメリカビロードキンクロ雄成鳥は、額が出ており頭部の形状が四角い、瘤状突起が小さい、上嘴側面は全体的にピンク色、脇が濃い茶褐色という特徴を持つ（Reeber 2015; 氏原・氏原 2015）。ニシビロードキンクロ雄成鳥は、額が高く頭部の形状が丸い、瘤状突起がほとんどない、上嘴が黄色い、脇が黒いという特徴を持つ（Reeber 2015; 氏原・氏原 2015）。本個体は、台形

の頭部、小さな瘤状突起、側面の大部分がピンク色の嘴、濃い茶褐色の脇という特徴を持っていた。これらの全てはアメリカビロードキンクロ雄成鳥のみに合致する (Reeber 2015; 氏原・氏原 2015)。よって本個体をアメリカビロードキンクロの雄成鳥と同定した。

9. 観察した行動：本個体はビロードキンクロ雄5羽雌1羽と一緒に海上に浮いていた。観察者の乗船する小型船の接近に驚き北西方向に飛去した。

10. 写真：あり (図1-2)

11. 死体・標本保管場所：なし

12. 過去の記録とその文献：日本鳥学会 (2012) には、本種は目録本体にも、Appendix B の検討中の種・亜種にも掲載されていない。また、国内における本種の記録を報告した学術論文はない。一方、近年出版された書籍には、ビロードキンクロの亜種アメリカビロードキンクロ *M. d. deglandi* として、2012年に北海道で雄が観察され、2014年には千葉県で少なくとも雄3個体が観察されていることが記されており、後者については写真が掲載されている (氏原・氏原 2015)。

13. その他：観察日以降には本個体は確認されていない。

14. 考察：アメリカビロードキンクロは、アラスカ及びカナダ中西部で繁殖し、アリューシャン列島東部、カナダ、アメリカの太平洋および大西洋沿岸で越冬する。本種は、シベリア東部から極東で繁殖するビロードキンクロ、およびシベリア西部からヨーロッパ北部で繁殖するニシビロードキンクロと同一種とみなされてきた (Madge & Burn 1998)。また、現在でもこれらを同一種とするチェックリストもある (Christidis et al. 2018)。しかしながら、これら3つの分類群は分布域が分かれており交雑例が知られていないこと、形態が異なることから、現在はそれぞれを独立種とすることが主流となってきた (Chesser et al. 2019; Clements et al. 2019; del Hoyo et al. 2019; Gill & Donsker 2019)。そのため、本稿もこの扱いに従った。

本観察記録は、日本における本種に関する初の学術論文であり、我々の知る限り、東北地方における本種の第一記録である。しかしながら、本観察記録は日本における本種の第一記録ではないだろう。先述の通り、氏原・氏原 (2015) は、本観察記録以前の国内からの本種の記録を2例挙げ、千葉県で撮影された雄3個体の特徴を詳細に解説

している。この他にも、2012年以降の複数年の冬季に北海道東部で撮影された本種の雄とされる画像がインターネット上のウェブサイトに掲載されている (道東の野鳥情報 a, b, c オンライン)。本種と類似種の識別は、性別、年齢、個体による形態差を考慮して詳細に行う必要があるため、本報告では過去の国内における本種の未発表記録の収集は行わなかったが、日本における本種の第一記録の決定と渡来状況を明らかにするために、今後はこれらの記録の論文発表が望まれる。

本個体がどのような経緯で仙台湾に迷行し、いつからいつまで当地に滞在していたのかは定かではない。しかしながら、本個体は、当地では冬鳥のビロードキンクロ (日本野鳥の会宮城県支部 2002) とともに行動していたため、当地で越冬していた可能性がある。本種は越冬期にしばしば分布域外に迷行し、ヨーロッパ西部では近年多くの記録がある (Reeber 2015)。また、極東ロシアでは、コマンドル諸島で複数回、沿海地方の Tachingous River 付近の海域で1回の記録がある (Dementiev & Gladkov 1967)。そのため、仙台湾を含む国内のビロードキンクロの越冬地では、今後本種が定期的に観察される可能性があるだろう。

伊藤栄明氏には洋上での観察について多大なる協力を頂いた。深く感謝を申し上げる。

引用文献

- Chesser RT, Burns KJ, Cicero C, Dunn JL, Kratter AW, Lovette IJ, Rasmussen PC, Remsen Jr JV, Stotz DF, & Winker K (2019) Sixtieth Supplement to the American Ornithological Society's Check-list of North American Birds. Auk 136: 1–23.
- Christidis L (ed) (2018) *The Howard and Moore Complete Checklist of the Birds of the World, version 4.1 (Downloadable checklist)*. (online) <https://www.howardandmoore.org>, accessed 2019–11–23.
- Clements JF, Schulenberg TS, Iliff MJ, Billerman SM, Fredericks TA, Sullivan BL & Wood CL (2019) *The eBird/Clements Checklist of Birds of the World: v2019*. (online) <https://www.birds.cornell.edu/clementschecklist/download/>, accessed 2019–11–23.
- del Hoyo J & Collar NJ (2014) *HBW and BirdLife International Illustrated Checklist of the Birds of the World. Volume 1: Non-passerines*. Lynx Edicions, Barcelona.
- del Hoyo J, Collar N & Kirwan GM (2019) White-winged Scoter (*Melanitta deglandi*). In: del Hoyo J, Elliott A, Sargatal J, Christie DA & de Juana E (eds) *Handbook of the Birds of the World Alive*. Lynx Edicions, Barcelona. (online) <https://www.hbw.com/node/467114>, accessed

- 2019-11-23.
- Dementiev GP & Gladkov NA (1967) *Birds of the Soviet Union. Vol. 4*. Israel Prog for Sci Trans, Jerusalem.
- 道東の野鳥情報 a. 2012 年 3 月 20 日 (火). (オンライン) http://eastern-hokkaido.blogspot.com/2012/03/blog-post_3929.html, 参照 2019-11-22.
- 道東の野鳥情報 b. 落石ネイチャークルーズ. (オンライン) <http://eastern-hokkaido.blogspot.com/2014/03/blog-post.html>, 参照 2019-11-22.
- 道東の野鳥情報 c. 落石ネイチャークルーズ AM 便. (オンライン) http://eastern-hokkaido.blogspot.com/2017/02/blog-post_26.html, 参照 2019-11-22.
- Gill F & Donsker D (2019) *IOC World Bird List* (v9.2). (online) <https://www.worldbirdnames.org/>, accessed 2019-11-23.
- Madge S & Burn H (1988) *Waterfowl: an identification guide to the ducks, geese and swans of the world*. Houghton Mifflin Company, New York.
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第 7 版. 日本鳥学会, 三田.
- 日本野鳥の会宮城県支部 (2002) 宮城県の鳥類分布 2002 年. 財団法人日本野鳥の会宮城県支部, 仙台.
- Reeber S (2015) *Waterfowl of North America, Europe, and Asia*. Princeton University Press, Princeton.
- 氏原巨雄・氏原道昭 (2015) 日本のカモ識別図鑑. 誠文堂新光社, 東京.